



令和2年度  
5月号

# KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

このKSSVCだよりでは、地域等と学校が「連携・協働」して行う「地域学校協働活動」を紹介していますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業などにより、予定していた取材活動ができない状況がありました。

そこで、今月号では、昨年度、紙面の都合で紹介できなかった活動も掲載しています。



## 交通安全教室

新年度を迎え、新しい環境に不慣れな時期に心配されるのは交通事故です。多くの学校では、交通安全に対する意識を高めるために「交通安全教室」を開催しています。



### 紙屋中学校

自転車の正しい乗り方とマナーを身に付けることを目的に行いました。初めに、交通ルールの再確認と自転車の点検を行った後、運動場に作られたコースを実際に運転しながら、横断歩道の渡り方や見通しの悪い交差点での運転など、「確認」することの大切さを学習しました。



### 幸ヶ丘小学校

小林警察署、交通安全協会の方々を講師に、1・2年生は横断歩道の渡り方について、3年生以上は自転車の正しい乗り方について、実技を通して学習しました。歩行中も、自転車運転中も、「確認する(見る)こと」が事故を防ぐ第一歩であることを教えていただきました。



ここからは、2月までに取材した活動です。学年は当時のものです。

## 立志式・夢シンポジウム

### 紙屋小 5年生

全校児童、保護者、来賓の皆さんが見守る中、7名が、将来の夢とそれを実現させるために頑張っていることを堂々と発表しました。

式終了後は、6年生・保護者とともに語り合うシンポジウムが開かれ、夢実現のために必要なことについて、意見交換を行いました。



立志式の後、夢について語り合ったシンポジウム

## 昔の生活を体験

### 南小 3年生

「石臼」「七輪」「大のこぎり・斧」「炭火アイロン」「背負子(しょいこ)・みの」などを実際を使って、昔の生活を体験しました。使い方を教えてくださったのは、小林ガイドボランティアと社会教育課の皆さんです。

現代の道具と比べると重かったり、手間がかかったりしますが、子どもたちの目には好奇心が溢れていました。



### 3校交流学习

野尻小・栗須小・紙屋小 4年生

2回目となる交流学习が野尻小で行われました。新聞紙で作った「棒」をつないで作品を作る図工の授業「つなぐんぐん」です。

3校混合による10グループに分かれ、何を作るのかを話し合った後、協力しながら創作していきましたが、2回目ということで、すぐに打ち解け、楽しく活動していました。

最後は、発表会を行い、各グループが苦心して作った作品をお互いに鑑賞しました。

この後は、5年生で宿泊学習を、6年生で修学旅行を合同で実施しながら、さらに交流を深めていきます。



### 立志式・講演会

小林中 2年生

来賓、保護者の皆さんが見守る中、138名が、将来に向けての決意を一人ずつ発表しました。

大きな声で堂々と発表する姿は、大変頼もしく見えました。

式後は、放送中の事故による四肢体幹麻痺を乗り越えて復帰を果たされた、テレビ宮崎アナウンサー柳田哲史さんの「夢の持つチカラ」と題する講演に、全員が真剣な表情で聞き入っていました。



講師の柳田さん

### 薬物乱用防止教室

細野中

小林保健所から講師を招いて、全校生徒と保護者の皆さんとが一緒に学習しました。

①薬物乱用とは、②薬物乱用はなぜいけないのか、③薬物乱用に陥らないためには、という流れで分かりやすく教えていただき、違法薬物の怖さ、断る勇気の大切さなどを学びました。



## ボランティア募集

### 子どもたちと一緒に、活動してみませんか？

学校の活動をサポート(お手伝い)して下さるボランティアを募集しています。ボランティア登録された方々は、市内の小・中学校に紹介いたします。

登録の仕方など、詳しくはKSSVC事務局へお問い合わせください。

電話:22-7912(中央公民館 社会教育課内)

### <サポートの例>

- 子どもたちとの交流や遊び
- 農業や栽培
- 草刈りなどの環境整備
- 備品の修理
- 伝統工芸や伝統芸能
- 裁縫や調理実習
- 朝自習の丸つけ
- 読み聞かせ

…など、どんなことでも結構です！



昔の遊びで交流



しめ縄づくりで交流



丸つけサポート



読み聞かせ



令和2年度  
6月号

# KSSVCだより

## 回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

半月ごとの二十四節気をさらに約5日おきに分けて、季節の動きや動植物の変化を知らせるのが七十二候です。

6月10日頃は「腐草為螢(くされたるくさほたるとなる)」と言い、草の中から螢が舞い、光を放ち始める頃だそうです。

この時期、市内の小学3年生は、市独自の教科「こすもす科」で、小林の自慢のひとつ「ホタル」について、専門家を招いたりしながら学習します。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために例年どおりにできない状況もあるようです。

早く、何の心配もなく学習や日常生活ができるようになるために、力を合わせていきましょう。



※ ちなみに気候という言葉は、二十四節気の「気」と七十二候の「候」から生まれたそうです。

### 交通安全教室



#### 三松小学校 1年生

小林警察署と交通安全協会の皆さんから、横断歩道の安全な渡り方を教わりました。

「右よし」「左よし」「信号よし」など、大きな声を出して確認する練習を繰り返し、自分の命を自分で守る力を身に付けました。



#### 細野小学校

低学年、中学年、高学年に分かれ、小林警察署と交通安全協会の皆さんから指導を受けながら、交通事故を防ぐために必要なことを学習しました。

ダミー人形での衝突実験のあと、1・2年生は横断歩道の安全な渡り方、3～6年生は自転車の正しい乗り方と横断歩道の渡り方を学びました。



### 学校から子どもたちへの「応援メッセージ」

新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休業が続く中、家庭で過ごす子どもたちへの「応援メッセージ」を募集したところ、多くの学校から寄せられました。

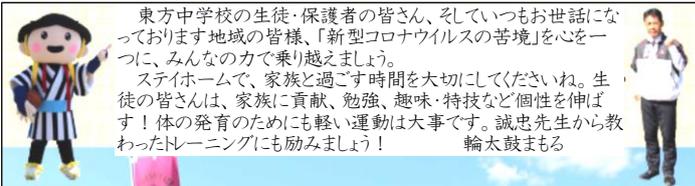
どのメッセージにも先生方の思いが詰まっており、全てを掲載したいのですが、紙面の都合で一部だけご紹介します。(一部、編集をしています)

#### 実際のメッセージは市のホームページで閲覧できます

KSSVCで検索し、「地域学校協働活動事業－小林市ポータルサイト」を選んでいただくと、メッセージを見ることができます。



#### 東方中学校のメッセージ



東方中学校の生徒・保護者の皆さん、そしていつもお世話になっております地域の皆様、「新型コロナウイルスの苦境」を心一つに、みんなの方で乗り越えましょう。  
ステイホームで、家族と過ごす時間を大切にしてくださいね。生徒の皆さんは、家族に貢献、勉強、趣味・特技など個性を伸ばす！体の発育のためにも軽い運動は大事です。誠忠先生から教わったトレーニングにも励みましょう！ 輪太鼓もる



新型コロナウイルスの一刻も早い終息を願っています。闘う皆様に感謝します!!!

## 栗須小学校のメッセージ

児童のみなさん、元気に過ごしているでしょうか。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休校が続いています。友達と元気に遊んだり、少年団などで思い切り活動したりできずに、つらい思いをしているのではないのでしょうか。

さて、校門わきの石碑に次のような言葉が刻まれています。

「共同助力は人の道 己の利のみかえりみず 力をわかち ものをさき 苦しむ者を 泣く者を 助けて共に楽しまん」今、世界中が大変な状況をむかえています。このようなときだからこそ、「共同助力」。お互いのことを考えながら、自分にできることを一生懸命に取り組みましょう。

先生たちは、みなさんとまたいっしょに学習できる日のために、今、一生懸命準備をしています。みなさんも、学習やお手伝いなど、今できることを一生懸命にがんばってください。おうえんしています。

令和2年4月30日 栗須小学校職員一同



## 小林中学校のメッセージ

### 小林中生徒の皆さんへ

現在臨時休業中で、「友達とも自由に会えない」、「学校での授業も受けられない」、「自分のやりたいこともできない」、という苦しい状態が続いていますが、それは皆さんだけではなく、日本中の人たちが不自由な生活を強いられています。このようなときだからこそ、みんなで心を一つにして、この困難を乗り越えましょう！

そのためには、『今自分にできることは何か』をしっかりと考え、『実践すること』が大切です。皆さんならきっとできると信じています。先生たちも自分にできることに精一杯取り組みながら、皆さんが元気に登校してくれることを心待ちにしています。

令和2年4月小林中学校職員一同



## 野尻中学校のメッセージ



N・・・なんでも  
S・・・素晴らしく  
D・・・できる野尻中生徒！

今は1人1人が感染しない、感染させないことが最優先！  
またみんなで笑顔の絶えない野尻中学校に戻れる日を楽しみにしています！

小林市立野尻中学校 職員一同

## 南小学校のメッセージ

### 南小学校のみなさんへ

臨時休業が続く中、どう過ごしていますか。先日の登校日にみなさんにアンケートをとりました。「元気にすごしているので、こまったことはありません。」「勉強はお母さんに教えてもらっているのでだいじょうぶです。」など、元気に過ごしている内容がほとんどでしたが、中には「勉強がおくれてこまる。」「外に出られないから運動不足になる。」など心配事をかかえている内容もありました。みなさんが今直面している状況は、つらかったり、不安だったりするかもしれませんが、でも、やまない雨はありません。きっとまた楽しい毎日もどってくるでしょう。それまで、今自分たちにできることを続けましょう。1日でも早く学校が再開し、元気なみなさんの姿が見られる日が来ることをわたしたちは待ち望んでいます。

小林市立南小学校職員一同





令和2年度  
7月号

# KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

「新型コロナウイルス」という言葉を聞かない日は無い状況が続いていますが、市内の小・中学校は、現在、感染防止に努めながら通常に近い形での教育活動を行っています。

地域等と連携・協働して行う「地域学校協働活動」も実施されるようになってきましたが、活動時間を短くしたり、3密(密閉・密集・密接)にならないようにしたりなど、各学校で様々な工夫をしています。また、これからの時期は、熱中症への対策も必要となってきます。

各学校の先生方や保護者・地域の皆様の子どもたちの健康に対する多くのご配慮に敬意を表しますとともに、早い終息を心から祈りたいと思います。



アマヒ

## 心肺蘇生法の研修

細野小 先生方

水泳シーズンを前に、緊急時における対応の仕方を学ぶ研修会を行いました。

「生死を分ける5分間」をテーマにした動画を視聴した後、倒れている傷病者を発見した時の対応、AEDの使い方、胸骨圧迫の行い方などの実習を行い、「命を救うための力」を身に付けました。

特に、胸骨圧迫については、トレーニングキットを使って、正しい圧迫をするための姿勢や力の入れ具合を体感することができました。



トレーニングキット



## 「栽培」の授業

西小林中 2年生

中学校の技術・家庭科の技術分野では、「作物の栽培」について学習しますが、専門的なことを学ぶためにお二人の方に支援していただきました。

### 1 基本について学ぶ

講師は、南西4区の区長で、農協の理事もされている下沖さんです。



野菜は根菜類、葉菜類、果菜類の3つに分類されること、肥料には、チッ素、リン酸、カリウムの3要素が必要であること、サツマイモは植え方によってイモの数、大きさが違うことなど、専門的で興味深い話を聞くことができました。



下沖さん



### 2 実習から学ぶ

「栽培」の基本を学んだ後は、サツマイモの苗を植える実習を行いました。

この日、支援してくださったのは前PTA会長の木村さんです。ほとんどの苗が「黄金千貫」という種類ですが、「シルクスweet」と「紅はるか」という種類も1畝ずつ植えました。

2人1組で協力しながら、1時間ほどですべての苗を植え終わりました。11月の収穫時の学習が楽しみです。



木村さん



## サツマイモの苗植え

食育の一環としてサツマイモの苗植えを行う小学校もあります。2校の取組を紹介します。

### 野尻小 1・2年生



支援してくださったのは、東麓営農組合とJA小林の皆さん、そしてPTA会長さんです。

今年は新型コロナウイルス感染と熱中症の予防のために、事前に8割程度の苗を植えていただき、活動時間を短くしました。子どもたちにはやや物足りなさもあったとは思いますが、それでも秋の収穫を思いながら、元気に活動しました。



最後に記念撮影

### 幸ヶ丘小 1～4年生

先生から植え方を教わった後に、作業開始。

3・4年生はさすがに慣れた手つきでしたが、1・2年生も助けてもらいながら上手に植えることができました。「おいもができたなら写真を撮りたいです。」「みんなと一緒に植えて楽しかったです。」「家でも作ってみたいです。」などの感想も聞かれ、楽しく、有意義な活動になりました。



## 国際交流員との交流

### 小林小 1年生

市国際交流員であるドイツ出身のアントニア・シュルトさんが、1年生3クラスを訪問しました。

ドイツの位置や家族のこと、町の様子などの紹介の後には、ニンジンやキュウリ、街並み、学校の教室など、ドイツと日本の違いをクイズにした「どくにちゲーム」をしていただきました。

クイズに正解するたびに子どもたちからは歓声が上がリ、楽しみながら国によって違いがあることを理解することができました。



「トニー」と呼んでください



クイズに正解すると大喜び!

## 歴史ウォークラリー

### 三松小 6年生

地域への愛情を育てることを目的に、校区内の史跡を歩きながら見学しました。案内は小林ガイドボランティアの皆さん9名です。

見学したのは、「内侍塚(ないしづか)」「関ヶ原役記念碑」「里程標(りていひょう)」「飯田家五輪塔」「田中の鼻」の5か所で、途中、トイレ休憩を入れながら、約2時間かけて巡りました。

これまで何気なく目にしていた史跡に歴史的な意味があることを知り、子どもたちには地域への興味が一層湧いたことと思います。



左は関ヶ原役記念碑、右は内侍塚にある関ヶ原の戦いから300年後に建てられた供養碑



令和2年度  
8月号

# KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

旧暦の8月(新暦では8月下旬から10月上旬ごろ)を葉月(はづき)と呼び、現在は、新暦8月の別名としても用いています。

葉月の由来は、木の葉が紅葉して落ちる月「葉落ち月」からという説が有名ですが、稲の穂が張る「穂張り月(ほはりづき)」という説もあるようです。

市内のいくつかの小・中学校では、保護者や地域、関係団体の方々に支援していただきながら、子どもたちが田植えや稲刈りを体験していますが、6月に植えた苗は順調に成長し、穂が張る時期を迎えようとしています。



今月号では、少し時を戻して、田植えの時の様子も紹介します。

## 田 植 え



### 紙屋小5年生・紙屋中生合同

5年生12名、中学生25名で行いました。支援して下さったのは、地域コーディネーターの杉元さんと小中学校のPTA生活指導部の皆さんです。中学生が小学生をやさしくサポートする場面も多く見られ、田植えを通して、小中学校の連携や絆がさらに深まりました。



### 西小林小 5年生

PTA環境整備部、JA小林青年部の方々に支援していただきながら、もち米の苗を植えました。

時折、雨が降る中ではありましたが、元気に、そして楽しみながら活動しました。田んぼ全面に苗を植えた子どもたちは、手足や顔に泥を付けながら、満足そうな表情を浮かべていました。



### 細野小 5年生



支援していただいたのは、まちづくり協議会、JA小林青年部、そして地域の皆さんです。

田んぼの真ん中から二手に分かれて植え始め、1時間30分ほどで終わりました。途中、恒例(?)の泥んこ大会もあり、楽しみながら、そして、食への感謝も忘れずに取り組みました。



### 栗須小 5・6年生

例年は全校児童での活動ですが、今年は新型コロナウイルス感染防止のために5・6年生のみで実施しました。

PTAをはじめ、営農組合、みかんやまスマイル会議、栗須ことぶき会など多くの方々のご支援により、子どもたちは安心して活動できました。



終了後、記念撮影をする6年生

## 社会科見学

### 永久津小 4年生

ごみの処理とリサイクルについて学習するために、九州北清廃棄物処理工場と市清掃工場を訪れました。

九州北清では、バスで工場を回った後、焼却炉にごみを入れるクレーンの様子を見学し(写真左)、清掃工場では、廃プラスチックが圧縮され、ラップで巻かれていく様子を見学しました。



## リモートで、社会人の声を聞く会

須木中 2年生

9月の職場体験に向けて、タブレットを使ったリモート（遠い・遠隔の意味）での社会人の声を聞く会を実施しました。



お話をしていただいたのは、中高生のキャリア教育や企業の社員研修などに取り組んでおられる日南市在住の羽田野さん(熊本県のご出身)です。

ご自身の性格のこと、東京での学生・社会人としての体験、働くことの魅力やコミュニケーション能力の大切さなどについてお話をされた後は、生徒たちからの質問に答えていただきました。

初めは、やや緊張していた生徒たちも徐々に慣れ、直接の会話や書き込みを通して、羽田野さんと双方向のやりとりをすることができました。

小林市では、タブレットが各学校に配付されています。今後は、遠くの方とも移動することなくつながることができるこのような取組も広がっていくのでは、と感じました。



## 福祉体験活動

東方中 1年生

社会福祉協議会の方を講師に、車いす体験と高齢者疑似体験を行いました。

車いすは小学校でも基本的なことを体験しているため、今回は、段差やせまい道、階段での介助など、難易度の高い活動を多く取り入れました。

高齢者疑似体験は、装具をつけた不自由な状況での階段昇降や記名、本読みなどを行いました。

体験を通して、高齢者や障がいのある方々に寄り添う姿勢を学ぶことができました。



段差での車いす介助体験



高齢者疑似体験

## パラオ環野(たまきの)

南西方の環野地区に、「パラオ環野」という建物があるのをご存じでしょうか。

建設されたのは、太平洋戦争終結後に、パラオから同地区に入植された方々の一人、久保松雄さん(85歳)です。KSSVC事務局員で久保さんを訪ね、お話を伺う機会がありましたので、その概要をお知らせします。

パラオとはパラオ共和国の通称で、フィリピンの東、ミクロネシア地域に位置する島国です。



パラオ環野

6歳の久保さんは、当時、日本の委任統治領であったパラオに家族とともに移住し、美しい自然の中で幸せに暮らしていたそうです。



久保松雄さん

しかし、太平洋戦争により、1944年9月から11月にかけてパラオ諸島の南にあるペリリュー島で、日本軍守備隊とアメリカ軍との激戦が繰り広げられ、多くの戦死者、戦傷者が出ました。

2015年4月、当時の天皇、皇后両陛下がパラオを訪問され、ペリリュー島で戦没者を慰霊された報道は、記憶に新しいと思います。

戦後、パラオはアメリカ軍の統治領となったため、久保さん一家は帰国させられ、横須賀での待機後に、入植地として小林を選ばれたそうです。

入植後も大変厳しい生活を送られたそうですが、花卉栽培に取り組み、現在は息子さんが跡を継いでおられます。



室内の様子

「パラオ環野」は、パラオの文化と戦争の悲惨さを後世に伝えたいという思いで、久保さんが自費で建設されました。柱や梁(はり)には、パラオの神話の絵が描かれ、壁面には戦争遺跡の写真などが掲示されています。

広島・長崎の「原爆の日」、そして「終戦の日」を迎える8月、戦争の悲惨さ、平和の大切さについて、改めて考えてみたいと思います。

有料(200円)で見学することができるそうですが、事前に(詳しいことは)久保さんにお電話をしてください。(とのこと)

電話：090-9728-4238



令和2年度  
9月号

# KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

9月になると厳しい暑さも少しずつ収まり、季節が夏から秋へと移り変わっていくのを感じます。

9月の学校行事と言えば、運動会、体育大会です。子どもたちはもちろん、保護者や地域の方々も楽しみにしている一大行事ですが、今年は新型コロナウイルス感染予防のために、ほとんどの学校が規模を縮小して行うようです。

しかし、どの学校も「限られた時間の中で何とか子どもたちに活躍の機会を与えたい」という思いは、強く持っていると思います。

ぜひ、ひとつひとつのプログラムに例年以上に集中し、中身の濃い、思い出に残る大会を作り上げてほしいものです。



## 三松中



保護者と元保護者の皆さんが、月に1度、全学級で実施してくださっています。

生徒たちは、思い思いの姿勢で、リラックスしながらも熱心に聞いていました。

メンバーの中には、3年生が小学1年生の時から読み聞かせをしている方もいらっしゃいます。子どもたちが真剣に耳を傾けるのは、9年間の積み重ねがあるからです。



## 読み聞かせ



想像力や言語能力が高まり、感情豊かになるなど、その効果が期待されている読み聞かせ。

小林市では、保護者や地域の方々などで構成された読み聞かせグループにより、すべての小・中学校で実施されています。2校の様子を紹介します。

### 小林小

読み聞かせグループ「くすの木文庫」の皆さんが、3年生以下と4年生以上に分け、期日を変えて実施してくださっています。



通常の絵本の読み聞かせに加え、スクリーンを使った大画面での読み聞かせ、物語に関するクイズの出題など、様々な工夫も見られます。

子どもたちは、背筋を伸ばして聞いたり、身を乗り出したり、リラックスしたりと、様々な姿勢や表情で読み聞かせに引き込まれていました。



大画面での読み聞かせ

## 平和への思いを伝える

### 須木小 6年生

真方在住の井口(いのくち)進さん(90歳)から、4名の子どもたちに、悲惨な戦争のこと、終戦前後の様子、平和への思いを伝えていただきました。

井口さんは、15歳で難関の大分陸軍少年飛行学校に入隊。毎日、勉強や訓練を続けておられましたが、戦地に赴くことはなく、16歳で終戦を迎えられました。

しかし、多くの同世代の若者が亡くなっており、46年間、知覧(鹿児島県南九州市)の慰霊祭に参列しておられるということです。

約40分間の力強いお話の最後は「戦争は絶対にだめです。平和を築いていけるのは、皆さんたちです。」と締めくくられました。



井口 進さん

## 人権を考える講演会 ～LGBTの理解

細野中

LGBTとは、性的少数者を表す言葉のひとつで、「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシャル」「トランスジェンダー」の頭文字を組み合わせた言葉です。

講師の黒木瑞季さんは、女性に生まれてきたのに、体が男性だったために男を演じてきたご自身の生い立ちを通して、LGBTへの正しい理解を講演活動等で啓発していらっしゃいます。

男子の制服、男女別の着替え、中学校の丸坊主、級友を避けて過ごした昼休み、修学旅行での入浴…など、当時の悩みや苦しみをお話してくださいました。

「国内のLGBTの割合は、左利きやAB型の人と同じ割合です。会ったことがなかったのではなく、気づかなかっただけなのです。」「これからの子どもたちが、私と同じ境遇で悩まないように、社会を変えたいと思っています。」などの黒木さんの言葉が、心に響きました。



黒木瑞季さん

## 認知症サポーター養成講座

西小林中 3年生

和(なごみ)福祉サービス代表の小倉和也さん扮する「かずばあさん」が、日本の高齢化の現状、認知症の原因、認知症と物忘れとの違い、サポートの仕方などを教えてくださいました。

生徒たちは、西諸弁を交えながらの親しみやすく、分かりやすいお話を真剣な表情で聞きながら、認知症の方々をみんなで支える社会にしていくことの必要性を学びました。

終了後、社会福祉協議会から、認知症サポーターであることを示すオレンジリングが配られ、生徒たちはさらに意識を高めていました



「かずばあさん」です

話し方も教えてもらいました

## 社会科見学 ～清掃工場

東方小 4年生

社会科の「リサイクルについて調べよう」という課題を解決するための見学です。説明して下さったのは、業務を受託している「NPO法人 赤とんぼ」の谷村さんです。

家庭で分別されたごみが、どのように処理され、リサイクルされていくのかなどの谷村さんのお話とともに、機械が動く様子も実際に見ながら学習しました。清掃工場の働きやリサイクルのしくみ、そして、ごみを減らす大切さを学びました。



説明して下さった谷村さん



廃プラの塊にラップを巻く機械

## 将来について考える

小林中 2年生

建設業、不動産業、外食産業、農業、公務員、医療関係など、16の事業所等から20名以上の講師を招いてのキャリア学習です。

生徒たちは、事前に選んだ4つの事業所のブースを回り、20分ずつお話を聞きます。

講師の皆さんは、仕事の内容、やりがい、喜びや苦勞などについて熱くお話して下さるとともに、質問にも丁寧に答えてくださいました。

自分の将来について考えを深めたいという生徒の思いと、次の世代を育てたいという講師の皆さんの思いが重なる素晴らしい取組でした。





令和2年度  
10月号

# KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

市内には、地域の伝統文化について学習・体験する機会を設けている学校があります(棒踊り、城攻め踊り、岩戸神楽、兵児踊り、輪太鼓踊り、鉦踊りなど)。また、新たな伝統を作る取組も行われています(幸ヶ丘太鼓、いちょう太鼓など)。

文化とは、言葉や料理、音楽、踊りなどのように、一定の地域の人々が、日ごろ行っていることだと聞いたことがあります。例えば、西諸県地域に住む方の多くは、日ごろ西諸弁で話しており、それが言葉の文化として根付いています。

今では特別に保存・継承されている文化も、その地域の方々にとっては、日常生活に根付いたものだったのかもしれませんが。

今月号では、地域の文化の継承に取り組んでいる子どもたちの様子も紹介します。



## 岩戸神楽の学習

三松小 4年生

校区内にある岩戸神社で、300年以上も舞い継承されている岩戸神楽について学習しています。

「岩戸神楽で使われる衣装や道具を観察する」ことをねらいとした授業では、岩戸神楽保存会会長の田原さんと神様の衣装を身に付けたPTA副会長の小川さんから衣装や道具の説明を受けた後、実際に刀や鈴、笛、面などを手に取って、じっくりと観察しました。



田原さん

小川さん

けっこう重い・・・

また、「岩戸神社や岩戸神楽の歴史について知る」ことをねらいとした授業では、社会教育課の井上さんから、岩戸神社や神社前に建立されている仁王像の歴史、岩戸神楽の由来などについて、多くの写真を見せてもらいながら、説明を受けました。

授業を通して、地域の伝統文化への誇りと、それを引き継ぐことの大切さを感じたことと思います。



井上さん

## 棒踊りの学習

野尻小 5・6年生

朝鮮出兵から帰還した薩摩藩主、島津義弘の戦功を祝うために踊られたと伝えられている棒踊り。東麓新地馬場棒踊り保存会の皆さんの指導を受けながら、平成10年から継承に取り組んでいます。

この日は、踊りの入場にあたる「出端(では)」を練習しましたが、入場のタイミング、細かな動き、掛け声などを丁寧に教えていただきながら、最後はきれいな隊列を組んで入場することができるようになりました。

棒踊りを地域の伝統文化として継承していきたいという保存会の皆さんと子どもたちの思いが、練習中の真剣な表情と動きに表れていました。



## 城攻め踊りの学習

紙屋小 4・5・6年生

江戸時代から伝承されていた城攻め踊りは、昭和初期から、途絶えがちだったそうです。しかし、昭和57年に当時の6年生により再現され、現在は、4・5・6年生が継承してくれています。

この日は、紙屋城攻め踊り保存会の4名の皆さんから指導を受けながら、4年生が太鼓、5年生が太鼓と鉦、6年生が鉦の練習を行いました。

初めて練習をする4年生にとって、太鼓をたたきながらの動きは大変難しいのですが、練習を繰り返すうちにスムーズになり、顔つきも5・6年生と同じようにきりりとしてきました。学習の成果は、運動会やほぜ祭りなどで披露しています。



## 兵児踊りの学習

小林小 4年生

島津氏が薩摩武士の士気を鼓舞するために踊らせたのが起源と伝えられている兵児踊り。ふるさとに古くから受けつがれている伝統芸能のよさに触れるために、総合的な学習の時間に学習しています。指導してくださるのは、真方一区兵児踊り保存会の皆さんです。

刀の向きや構え、手や足の動かし方など、丁寧に指導していただきながら、少しずつ兵児踊りの勇壮さを表現できるようになりました。学習の成果は、毎年、運動会で披露されています。



## 情報モラル学習

東方中

パソコンやスマートフォンで頻発しているネットトラブルを未然に防ぐために、トラブルの実際や対処法について学習しました。講師は、県消費生活センター都城支所の宮原さんです。

「お試しと思って購入したものが、定期購入の契約になっていた」「ゲームの課金をしていたところ、26万円請求された」など、4つのトラブルケースについて、「何がいけなかったのか」「対処法は？」を考えながら進めていきました。

生徒たちの多くがスマートフォンを所有しているためか、自分のこととして真剣に考えていました。



## 手話講座

野尻中 3年生

平成30年4月に「小林市手話言語条例」が施行されたことから、市内の中学3年生は、こすもす科で、手話について学習することになっています。

野尻中では、小林手話サークル「木の実会」の皆さんを講師に招いて学習しました。

初めに「聞こえない人の生活について」の話聞いた後、口話やジャスチャー、手話でのあいさつや自己紹介を体験しながら、それらが聴覚障がいのある方にとって、大切な「言語」であることを理解することができました。



手話でのあいさつ(左は「こんにちは」、右は「こんばんは」)



自己紹介のために、指文字で自分の名前を練習しました。

## 木工教室

幸ヶ丘小

夏休みの登校日の放課後子ども教室で、保護者も参加して行われました。これは、森林環境教育・木育の一環として開催するもので、森林組合の2名の方に指導していただきました。

初めに、森林の働きや守るための活動などを学習した後に、今年は「ポスト」製作に取り組みました。毎年行われているため、子どもたちは慣れた手つきを見せてくれましたが、ポストのふたを蝶番でつなぐ工程にはやや苦勞していました。

最後は、完成品を持って全員で記念写真を撮りましたが、夏休みの思い出のひとつになったことと思います。





令和2年度  
11月号

# KSSVCだより

## 回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

アメリカ海洋大気局(NOAA)によると、北半球の今年6月から8月の平均気温は、これまでで最も暑かった2016年と去年の2019年を1.17度上回り、史上最も暑い夏だったということです。

確かに、今年の夏は、異常と言ってもいいほどの暑さが続きましたが、9月、10月と暑さも和らぎ、秋が深まってきました。そして、11月7日には立冬を迎え、冬が始まります。

四季があり、それぞれの季節に応じた楽しみのある日本。学校でも学習や行事を通して季節感を味わうことが多くあります。

今月号ではそのような取組も紹介します。



### 芸術の秋・演劇鑑賞教室

### 西小林小・幸ヶ丘小合同

劇団「こぶく劇場」による演目「カチカチリンカリンカ」を鑑賞しました。

翌日から無人駅となる小さな駅を舞台にした、青年駅員と人間の男の子に化けたキツネの子どもとの不思議で心温まる交流のお話です。

子どもたちが登場人物に扮したり、一緒に踊ったりする場面もあり、楽しい時間を過ごしながらか芸術の秋を満喫していました。須木小や西小林中でも同じ演目を鑑賞しています。



乗客役の子どもたちの登場場面では、みんな大喜びでした

### そばの種まき

### 細野小 4年生

総合的な学習の時間に、そばの栽培を体験していますが、天候の関係で延期になっていた種まきを9月初旬に行いました。準備や指導をくださったのは、営農組合とJA小林的皆さんです。

袋に小分けされた種を受け取った子どもたちは、3人1組になって、畑全体に、まんべんなく丁寧にまいていきました。

種まき後は、そばの花の鑑賞会、収穫、そして、そば打ちと、季節の移り変わりに合わせて学習を進めていきます。



種まき後、70日で収穫できます



営農組合長さんの話



1区画3人1組で、丁寧にまいていきました

### 育て、読書好き・読み聞かせ

### 須木小

読み聞かせグループ「あすなる会」の皆さんと市立図書館須木分館の方が、月に1~4回、昼休みの後に、全校児童を対象に行ってくださいます。

子どもたちは、リラックスしたり、背筋を伸ばしたり、さまざまな姿勢や表情で聞きながら、本の楽しさを味わっていました。



## 読書の秋・図書館見学

南小 2年生

生活科の授業で、公共施設である図書館について学習しました。職員の皆さんに案内してもらったり、実際に本を借りたりしながら、図書館の設備について知るとともに、本を借りる時のルールや館内でのマナーについても学びました。



新読書室(左)には、可動式の書架に、3万冊の本があります



読みたい本を2冊選んで、実際に借りる体験をしました

## 「美しい町小林」のために

細野中 1年生

2クラスで10のグループを作り、それぞれがテーマを設定して、「美しい町小林」のためにできることを考えていくこすもす科の授業です。

この日は、各テーマに関係する市役所の課の方がグループに入り、観光や歴史、水、ごみ、畜産などに関する質問に丁寧に答えていただきました。

生徒達は、小林のことについての新しい発見に驚きながら、真剣に、そして積極的に学習に取り組んでいました。



左は「自然(星・ホテル)」、右は「ごみ処理」がテーマです



左は「名水」、右は「観光」をテーマに学習しています

## 芸術の秋・県立美術館移動鑑賞教室

須木中

優れた美術作品に触れ、美術館を身近に感じてもらうために行われました。

初めに、県立美術館の特徴や代表的収蔵品を紹介するビデオを視聴した後、実際に美術館で行われている展示作業の実演を見学しました。

その後は、宮崎県出身の瑛九(えいきゅう)をはじめ、4名の画家の実際の作品を鑑賞しましたが、生徒たちは本物の美術作品を目の前に、興味津々な様子で芸術の秋を楽しんでいました。



紹介ビデオの視聴



展示作業の実演



4名の画家の作品をじっくりと鑑賞しました

## ものづくりの楽しさを体験

西小林中 1年生

ものづくりのおもしろさ、大切さを伝え、人材育成につなげるための体験教室です。

生徒たちは「ミニ畳づくり」か「和裁でエコバッグづくり」のどちらかを選び、技能士(ものづくりマイスター)の方々の丁寧な指導を受けながら、作品作りに取り組みました。

細かな作業に苦勞する場面もありましたが、全員が楽しく取り組み、完成品を見ながら、満足そうな表情を浮かべていました。



左は「ミニ畳づくり」、右は「エコバッグづくり」の様子



令和2年度  
12月号

# KSSVCだより

## 回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

令和2年もうよいよ残り1か月となりましたが、今年の干支（十干と十二支の組み合わせ）は、「庚子（かのえね）」でした。

庚子の年は「変化が多い」と言われているようですが、正に、新型コロナの影響で、世の中が大きく変化した一年となりました。



学校でも、授業や行事、部活動などが、これまで通りにはできないような変化がありました。一方、授業へのリモート導入や行事の見直し、効率的に活動するための工夫など、前に進むような変化もありました。

令和3年の干支は、辛丑（かのとうし）で、「努力を重ね、成果を上げる」と言われているそうです。

これまでの努力や工夫が実を結ぶ年になってほしいと思います。



皆さま、よいお年をお迎えください。

### 収穫の秋 ～稲刈り特集～



#### 小林小 5年生

新型コロナ対応のため、田植えは機械で行いましたが、稲刈りは体験することができました。

支援してくださったのは、地域で農業を営まれている上野さんです。

見事な秋晴れの下、子どもたちは「刈りとり」「束ねてワラで縛る」「干す」という作業を交代で行いながら、収穫の喜びや稲刈りの大変さ、協力することの大切さを感じることができました。



上野さん



#### 細野小 5年生



細野まちづくり協議会、JA小林青年部、そして保護者や地域の皆さんに支援していただきました。

鎌を使っての稲刈りと同時に、足踏み式脱穀機の体験やコンバインでの刈りとり見学なども行い、米作りの歴史や現代の農業の状況なども学ぶことができました。



足踏み式脱穀機の体験



コンバインでの刈りとりを見学

#### 西小林小 5・6年生



支援してくださったのは、PTAの環境整備部、JA小林青年部の皆さんです。

初めに、数人が機械刈りを体験した後、鎌を使って刈り、掛け干しまで行いました。

全員が協力して、手際よく行ったため、予定よりも早く終了することができました。



掛け干した稲の前で

### 野尻小 3年生



営農組合や地域の皆さん方に刈り方を教えていただきながら、全員が一生涯懸命取り組みました。

終了後は、落ち穂を拾ったり、小さな生き物をさがしたりと、深まりゆく秋を楽しみました。



### 栗須小 全校児童

PTA事業部をはじめ、営農組合、みかんやまスマイル会議など多くの方々とともに、1～6年生混成の16グループで実施しました。

上級生が下級生の手を取り、刈り方を教える光景がいたるところで見られました。

収穫したもち米は家に持って帰り、お餅にしたり地域に配ったりします。今年は豊作でした。



### 紙屋小5年生・紙屋中全校生徒



地域コーディネーターの杉元さん、小中のPTA生活指導部の皆さんに支援していただきました。

小・中学生のてきぱきとした作業により、短時間で刈り取りを終え、脱穀まで行いました。途中、機械のトラブルもありましたが、なんとか全ての脱穀を終え、全員で収穫の喜びを味わいました。



### 岩戸神楽の伝承

### 三松中 2年生

保存会の方々の指導を受けながら、小林市で唯一現存する岩戸神楽の伝承に取り組んでいます。

舞い手や伴奏、小道具、背景などを全員で分担し、体育大会後から本格的な練習や準備を進めながら、文化発表会で見事に披露してくれました。

地域の伝統を引き継ぐと同時に、学校の伝統としても受け継がれています。



文化発表会当日の舞い

### 正しい「インターネットの使い方」

### 東方小

参観日に、児童と保護者で「インターネットの使い方」について考えました。

講師は、都城警察署少年補導職員の堀之内さん、千代盛さんです。ネットゲームや写真・動画の投稿で起こったトラブル事例をもとに、回避するにはどうすればよいか、大切なことは何かについて、子どもたちも保護者も真剣に考えていきました。





令和2年度  
1月号

# KSSVCだより

## 回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

### 明けまして おめでとうございます

令和3年はうし年、市の観光イメージキャラクター「こすモ〜」の年です。

去年は、中止になったイベントもあり、こすモ〜も我慢することが多かったことと思いますが、今年は、去年の分も含めて大活躍してくれる一年になってほしいものです。



さて、KSSVC だよりでは、今年も、地域の方々や団体等の参画を得ながら、地域全体で子どもたちの成長を支える活動を紹介していきます。

新型コロナが収束し、こすモ〜と同じように、子どもたちが学習や行事、運動に大活躍する姿をお伝えできることを願っています。



今年もどうぞよろしくお願いたします。

### 郷土の先人について学ぶ

三松小 4年生

社会科の「きょう土を開く」という授業で、野尻原(のじりばる)用水路建設に尽力した郷土の先人、田丸貞重について学習しました。

その中で「どんな道具を使って用水路を作ったのか」という課題を解決するために、歴史や文化財に詳しい社会教育課の井上さんをゲストティーチャー(外部講師)としてお招きしました。

子どもたちは、実際に工事で使われていた道具の説明を受けたり、触れたりしながら、当時の方々の苦労はもちろん、用水路建設への思いについても理解を深めていきました。



井上さん



斧



のこぎり



竹もっこ

### 礼法を学ぶ ~入試に向けて

野尻中 3年生

高校入試の面接対策として、礼法指導が行われました。指導してくださったのは、宮崎学園で礼法主任をされている渡嘉敷齊子先生です。

「形に心(合格したい気持ち)を寄せ、心に形を乗せることが大切だ」というお話をされた後、礼の仕方、座った時の姿勢、椅子への座り方、立ち方など具体的に教えていただきました。

生徒たちは、夢実現のために、そして、心を豊かにするために真剣に取り組みました。



渡嘉敷先生

面接で大切なのは、笑顔、アイコンタクト、挨拶、身だしなみです。



座った時の姿勢や礼の仕方を確認しました

### 育て! 読書好き ~読み聞かせ

永久津小

「読み聞かせの会」から5名の方が、楽しみにしている子どもたちのために、早朝から学校に集まってくれました。

朝日が差し込む清々しい空気いっぱいの教室で、子どもたちは目を輝かせながら、お話に聞き入っていました。月に2回の開催ですが、子どもたちの心を豊かにし、読書好きを増やす素晴らしい取組です。



## 防災学習 ～地震から命を守る

南小 6年生

県民一斉防災行動訓練「みやぎきシェイクアウト」の日に、休み時間に地震が発生したという設定で、安全確保行動の訓練を行いました。

子どもたちには、訓練のことは知らせていませんでしたが、地震発生の日ごろ素早く机の下に潜り込み、命を守る行動をとることができました。

その後、動画やスライドを見ながら、学校内外で地震が発生した時の行動や日ごろの心構えなどについて考えていきましたが、全員が真剣な表情、姿勢で取り組み、充実した防災学習になりました。



地震発生放送の聞いた子どもたちは、素早く机の下に・・・



訓練後は、防災のための行動や心構えなどを学習

## ものづくり体験教室

小林中 1年生

ものづくりの魅力に触れるための体験教室です。生徒たちは「盆景」「切り絵」「ミニ畳」「ポシェット」「エコバッグ」「化粧箱」「ハムスターハウス」「椅子」の中から1つ選び、技能士（ものづくりマイスター）の方々の丁寧な指導を受けながら、作品作りに取り組みました。

細かな作業に苦勞する場面もありましたが、全員が作品を完成させ、ものづくりのおもしろさを味わうことができました。



左は「盆景」(造園・園芸)、右は「切り絵」(広告美術)



左は「化粧箱」(表装)、右は「椅子」(建具)

## ハローワーク in 東方

東方中 1・2年生

キャリア教育の一環として、介護職員や社会福祉士、相談員など、福祉に関する7職種9名の方々に協力いただき開催しました。

初めに、市社会福祉法人連絡会の小田恭子会長の講話を全体で聞いた後、班ごとに、3職種のブースを回りながら、仕事の内容、やりがい、苦勞などを直接聞きました。

今後、より重要となる福祉の仕事と、現場で働いておられる方々の思いについて理解を深めるよい機会となりました。



## 高校生による学習支援

細野中3年生

小林高校探求科学コースの1・2年生の地域探求学習の中で、学力の格差が話題になり、地域の学力向上のためにできることの一つとして、中学校での学習教室を考えました。

3年生全員を数学と英語のクラスに分けて実施しましたが、高校生は2時間の打合せを行い、指導方法を確認して臨みました。

高校生に教えてもらうことで、中学生はいつも以上に「やる気」を出し、また、高校生にとっても、探求学習を実践するよい機会となりました。

中学生と高校生の関係が深まり、共に成長することができる素晴らしい取組となりました。





令和2年度  
2月号

# KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

2月の二十四節季には、「立春」(春の始まり)「雨水」(雪から雨に変わり、積もった雪も溶けだす時期)と、春の訪れを表す言葉が並ぶのですが、まだまだ、厳しい寒さが続く時期です。

この時期、中学3年生は高校入試シーズンを迎えますが、今年は、新型コロナも加わり、例年以上に感染症対策に力を入れていると思います。

マスク、手洗い、消毒、換気などの対策とともに、健康管理にも留意しながら、これまで育んできた夢に向かって、さらに前進してほしいものです。

※ 今年には124年ぶりに3日が立春となるそうですので、豆まきの日をお間違えのないように…



## 中央消防署を見学

永久津小 3年生

緊急時に、私たちの命や生活を守ってくれる消防署の施設や設備、署員の方々の緊急時の対応や仕事に対する思いなどを学びました。



子どもたちの質問に、消防士さんたちが丁寧に答えてくださいました。一部ですが紹介します。

- 火事の発生がない時は、避難訓練や立入検査の準備、火事の報告書を書いたりします。
- 消火では逃げ遅れた人がいないかの確認が大切。
- ドクターヘリは宮崎から15分で飛んできます。
- 119番につながる電話は3つ。大きな災害時は8つに増えます。
- スプレッダーは、ドアの隙間に入れて広げる道具です。カッターは、鉄を切る時に使います。

## 地域を花いっぱい

三松中 1年生

ホームセンターやまさきの北側歩道沿いの花壇を花いっぱいになりました。小林土木事務所と学校とが協定を結び、平成22年から行われているものです。

造園業者さんのアドバイスも受けながら植えたのは、パンジー、ビオラ、金魚草などの冬の寒さに強い花で、春過ぎまで見ごろが続きます。

丁寧に心を込めて植えた花たちが、信号で止まった車の運転手さんや歩道を散歩される方々の気持ちを温かくしてくれることと思います。



## 地域の歴史を学ぶ

須木小 6年生

社会科の学習で、「二原遺跡」と「えびの市歴史民俗資料館」を見学しました。

二原遺跡では、小林ガイドボランティアの方から、地下式横穴墓の構造や歴史について、また、えびの市歴史民俗資料館では、学芸員の方から、展示してある出土品などについての説明を受けました。

子どもたちは、自分たちが住む地域の貴重な文化財や出土品、資料などに驚いたり、感心したりしながら、歴史をより身近に感じたようでした。



二原遺跡



えびの市歴史民俗資料館

## 市未来予想図、リモートで発表

須木中 3年生

市独自の教科「こすもす科」では、中学3年生で、市の将来像を描く「小林市未来予想図」という学習に取り組みます。

須木中では、保護者や地域の方々への学習成果発表の前に、リモートでの交流がある島根県海士町の海士(あま)中学校3年生に向けて、これまで考えてきた内容のプレゼンテーションを行いました。

2つの班が、「すきバスツアー」や「ツリーハウス」などの須木活性化のアイデアを発表した後は、海士中から多くのアドバイスが届きました。

離れた地域に住む、同学年からのアドバイスは新鮮で、その後の学習をさらに意欲的に進める力になりました。



発表中の生徒たち



須木の特徴が生かされていました

感想をお願いします

## 地域の方々と料理教室

西小林中 1年生

2年生が「技術」の授業で栽培したさつまいもを使って、地域の方々と一緒に、「シチュー」「がね」「さつまいもときゅうりのサラダ」の3品を作りました。

食材を切ったり、茹でたり、揚げたりする際には、やや不安な場面もありましたが、地域の方々の的確なアドバイスで、全てのグループが時間内に調理を終えることができました。そして、もちろん、全員が、笑顔で美味しくいただきました。



これまでの「たより」は [KSSVC](#) で検索を

## 福祉体験学習 ～車いす体験

小林小 4年生

車いす体験を通して、障がいのある人や介助する人の状況、気持ちを理解するための学習です。支援をしてくださったのは、社会福祉協議会と福祉教育協力員の皆さんです。

3人1組で、車いす操作、介助、記録を交代しながら、スロープや段差などを含んだコースを体験しました。子どもたちは楽しく体験しながらも、自分たちに何ができるのかを真剣に考えていました。



## 収穫感謝集会

野尻小 1～3年生

例年は、餅つきなどで地域の方々と交流していますが、コロナ禍の今年も、お米とさつまいもの栽培でお世話になっている営農組合とJAこばやしの皆さんをお招きして開催しました。



集会では、学年ごとに、お礼の言葉や歌、踊り、栽培を通して学んだことの発表などを行い、支援してくださった方々に感謝の身持ちを届けました。



踊り「花笠音頭」の披露とお米についての学習発表(3年生)



令和2年度  
3月号

# KSSVCだより

## 回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC事務局 (TEL22-7912)

三月三日は「ひな祭り」。ひな祭りの起源は、古代中国で起こった「上巳(じょうし/じょうみ)節」に遡ると言われています。

三月初めは、季節の変わり目で、災いをもたらす邪気が入りやすいと考えられていましたので、元々は、春の訪れを喜び、無病息災を願う厄払いの行事だったそうです。



後半には、春分の日を中日とした「春のお彼岸」を迎えます。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、次第に寒さも和らいでいきます。

暖かくなるにつれてコロナ禍が収まり、次のステージに進む子どもたちが、何の心配もなく運動や学習ができるようになることを願っています。

### 昔にタイムスリップ

西小林小 3年生

社会科の授業で、のじりこびあ内にある「野尻町歴史民俗資料館」を見学しました。

社会教育課の井上さんと小林ガイドボランティアの倉持さん、青山さんの案内で、昭和初期の頃の民家を再現したコーナーや縄を編む機械、わらを打つ道具などを見学しました。

見学終了後は、背負子(しょいこ)や蓑(みの)、わらじなど、昔の人々が使っていた道具に触れる時間もあり、昔の生活を想像しながら、歴史を身近に感じる事ができました。



再現された昭和初期の頃の民家

わら打ちの道具



左から「背負子(しょいこ)」、「蓑(みの)」、「わらじ」です

### 人権尊重の心を育む

東方小

人権擁護委員の皆さんとともに、学年に応じた内容に取り組みながら、人権について考えました。

2年生は、いじめられていた白い魚がみんなを助けて仲間になる「白い魚とサメの子」という紙芝居を見て、「自分らしくありのままに生きる大切さ」について考えました。



5・6年生は、人権に関する標語で作られた「人権カルタ」を体験。読み札が読まれるたびに、それに合った絵札を取り合い、楽しみながら、人権感覚を磨くことができました。



他の学年でも、DVD視聴や読み聞かせなどを通して、思いやりや命の大切さなどを学びましたが、全員が、真剣に、そして積極的に取り組みました。

### 体も心もいきいき ~ヨガ教室

幸ヶ丘小

持久走大会終了後の学校保健委員会で、保護者、先生方も交えてヨガに取り組みました。講師は市スポーツ推進委員の長崎まり子さんです。

首、腰、足の裏に関連する運動や両手両足を振る毛管体操、胸郭を広げて息を吸う方法など、色々な運動やポーズに挑戦しました。終了後は、持久走の疲れもとれ、体も心も軽くなったようです。



長崎さん

## しめ縄づくりで世代間交流

紙屋中 1年生

総合的な学習の時間に、正月用のしめ縄を作りながら、地域の方々との世代間交流を行いました。

生徒全員が初めての経験のため、特に縄をなう作業に悪戦苦闘していましたが、地域の方々の丁寧なご指導とサポートにより、立派なしめ縄を完成させることができました。

「コロナ退散」の願いも込めたしめ縄で、健康で明るい新年を迎えることができたことと思います。



お手本(左)を見ると簡単そうでしたが、縄をなうのは大変でした



## ものづくりは楽しいっ！

紙屋小 5・6年生

ものづくりの楽しさや魅力に触れるために、板金の技術を生かした銅板レリーフ(表札)づくりを体験しました。

指導して下さったのは、板金技能士の中でも高度な技能をもっておられる「ものづくりマイスター」5名の方々です。

マイスターの皆さんの優しく丁寧なご指導の下、重厚感あふれる作品を作り上げた子どもたちは、全員が満足そうな表情を浮かべていました。



完成した作品の鑑賞会です

## 幼児との遊びから学ぶ

東方中 2年生

技術・家庭科(家庭分野)の「幼児の遊びと発達」の学習のために、東方保育園を訪問し、園児たちとふれ合う体験を行いました。

事前学習では、冨満園長先生から多くのアドバイスをいただきながら、活動計画の作成、おもちゃ作り、絵本選定などをして体験に備えました。

当日は、1・2歳児から6歳児までの5つのクラスで、パズルや指人形、紙コブターなどの年齢に応じたおもちゃや絵本を使って、思いっきり遊びながら、学習を深めることができました。

園児たちも中学生との遊びに大喜びで、終了後は、名残惜しそうに手を振る姿が見られました。



絵合わせパズル(3歳児)

読み聞かせ(4歳児)

## 野尻町歴史民俗資料館について

今月号の記事中の西小林小が見学した歴史民俗資料館は、のじりこぴあ内にある城館風の建物です。

小林市内の遺跡からの出土品や歴史資料、民具などを展示していますので、ぜひ一度訪れて、タイムスリップを楽しんでみてはいかがでしょうか。

◇入館料：無料(!)

◇開館時間：平日 午前10時から午後5時  
土日祝日 午前9時から午後5時

◇休館日：第1水曜日



資料館の外観



昭和初期頃の民家を再現